



西遊全傳



2500  
40-16



門へ遠く  
2500  
40-16

池清



繪本西遊記二編卷之六

池清

三清觀大聖留名

車遲國猴王顯法

結鏡孫行者ハ衆僧の鏡成まき別を告て運小城門乃口小来る道  
 士が曰你々令叔那裡小有しや否や行者が曰在那五百人皆我伯父  
 かり。你五百人をとてく放免せ。道士大り小憫く曰。あり小你些風病  
 と凡そんり心成鎮く乱鏡をりあうまうれ。那和尚們ハ國王の命小て  
 若一人を放どゆの師又小迹了成得く疾病小付補免状とつひ主鏡  
 小放とてり成ほる。怎麼都く放とてり成ほん。行者が曰你志うと  
 放とてり成ほる。道士曰断然放さし。行者大り小怒り耳朶の内より鉄  
 棍を取出し一晃あつて道士の頭上より下せむ。只一棍小二人の頭

百卷二編卷之六

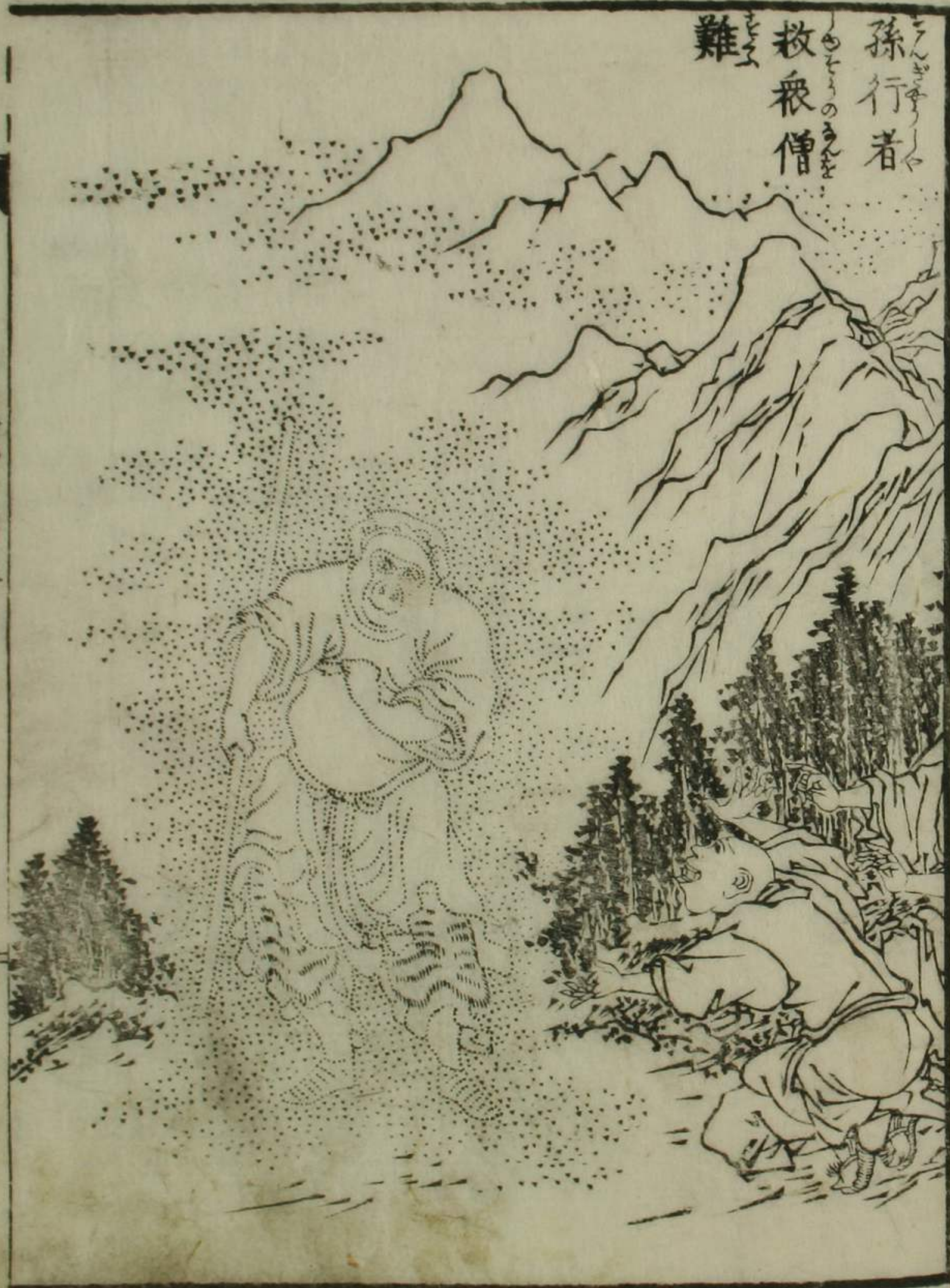
我碎々斃死たり灘上の僧徒是を隠し見し車を去り進み  
 来り道へけしより憫みく。不好く皇親を殺せり他師又必ず我  
 們我捉(連坐)縛殺せん。是ハ怎了々々只進み行へ此事我松( )  
 命を助くるハ不如と慌惑ふ。行者曰你们休嚷まじり勿き我身  
 雲水全真あまを唐僧の大徒弟存天大聖孫行者なり。特来  
 つく你们を救へんとす。衆僧信ぜんとて曰不是々々我那老爺を  
 認はし。行者訝りて曰我曾て你们ハ不會如何と認得や。僧徒曰  
 我門夢ハ二個の神將をん。他自曰我ハ大白金星なり。你们ハ那大聖  
 乃鼻撮を告あま。那孫行者ハ磕額金睛圓頭毛臉ゆ。貌雷公  
 のごとく金箍棒我使の專一人の災害我救ふと告畢く。夢醒り  
 行者曰大いふこと。然るに我其の模様を見せんと遂に本相を

現うたれど。衆僧とて倒身手必合せ拜し。曰大聖我門我憐れ恨を  
 雪だ災を消しとむれと泣給ふ。行者點首。你们大勢志とて散  
 て我手足の辺小居る。勿き我明日国王小刀をえて那道士們滅亡  
 させん。衆僧曰我亦遠く逃走を恐る。人小捉られ及て禍を惹  
 出さん。行者曰然るに我你ハ護身法なと人と逐し毫毛我一把  
 抜く一人小各一根を分与へ。叔教く曰你亦此毛我無名指の甲の裡小  
 藏し。拳我捻く。只管小路を走ま。人有人捉へんと。何事  
 拳を放し。大聖と呼。然るに到る。你们我護らん。衆僧定て。試小  
 那毛を甲小隠し。手必啓く。後天大聖と一声呼ふ。只看一人乃行者  
 面前小現き。出手小鉄棍を執り。結ま。八千軍萬馬も追付ま。く  
 人も亦拳我捻き。忽ち行者の像手中小収り。ね。衆僧此奇特

残るく収ひのさき拜謝し各一夜小逃去んし守行者皆しと呼  
 留し曰你們遠く遁るるが。我那道士成滅さる。城外小擄たり  
 とし其因同り来く我毫毛成還せ。衆僧奉半四方小散去り  
 たり。却説唐僧ハ行者久く皈来しされむ。八戒汝僧と俱小城  
 辺小きりりるふ。行者いけと散残るる和尚數十個の裡小ありて三  
 藏のきりり成ん急小僧徒を引く師又成迎上頂條成説る。三  
 藏半ハ収ひ成ハ思き此事如何あんと危り。那和尚小曰活佛放  
 心し。明日早朝大聖るるを処置あると我を是城裡の勅建知  
 刹寺の僧人をり。我寺ハ先王大祖の御造立故小い。曾く折毀を  
 老師又成請く寺内小安寐すのせんと。藏定く大り小収ひ馬を  
 下り城裡小入不妻因三门小至。正殿上り三藏佛前小礼拜す

此間小衆僧去く毎夜安寐きりぬ師徒十分小吃し。平方丈  
 小へ安寐し。斯く時二更小及ふ比行者ふと眼成覚す。小  
 吹歩成えん。急小衣服成穿了。跳く雲中。小上り是成りる。小  
 是三清觀小那三個の道士法衣成披了。耀星一両辺小々七八百の  
 徒等寄集り。鼓成司し鐘成司し。香成待く表白成りたり。行者  
 看了く雲端成按落。悟淨成呼め。汝僧醒來つ。曰哥。還曾  
 腫さるや。行者曰你起き。れ一個の受用成さる。這城裡一座の三  
 清觀あり。觀裡の修醮乃殿上小并まの供養饅頭あり。と大に  
 こと并行成。又五六十斤の焼餅もあり。擲物無數果品新鮮なり  
 我く你と和めく受用せん。八戒腫變裡小是成。醒來く曰哥。何  
 何ゆ。我成も帶繫成。行者曰。你喧し。りや。

孫行者  
救衆僧  
難



行者

西遊記

師父の躡成致さるる妨あらん。只我小者ききりしれり。兩個脱ひて衣  
 服成套上帽々門成出雲小駕り運小三清觀おひりり刀なる小燈を  
 點一連の星のりり。なれば八戒既ふしんとさる。成行者扯住且忙  
 り成休よ。我方便あり他ホグ退散さるる成待く下んと念法念鬼  
 り巽地の方小向ひ一口の氣を吸吹下せんと忽ち三障の狂風となりて  
 三清殿上小吹りり。數万の燈燭を二條小吹消りり。我ら道士  
 大の心おろし胆戦成るる。虎力大仙が曰徒多且く散せよ。の  
 陣風凶多吉小。明早余の經成念どく數成補らん。是ふより  
 り衆道士各散り回られ。行者仕遂りり。八戒沙僧成引り殿上  
 小入る。八戒彭子早く焼餅成拿り張口吃り。行者白上座小座り  
 り。是元始天尊靈宝道君太上老君の木像なり我三人

都く這とく小変りり安穩し吃り。八戒はやく忽ち高臺より肥  
 上り老君の像成把り拱下り。已太上老君小変りり。行者小変  
 りり元始天尊をかり。沙僧ハ靈宝道君となり。各原像成りり  
 推下り。行者が曰這聖像成茲小置道士尙来つり。是成りり巧謀  
 あらまらん。八戒往り門口の大池の裡へ丟込み。貳子心得跳下りり  
 三個の像を把り肩は膊上池水へ抛込り殿上へり。回り依旧老  
 君小変り。三個坐りり。供物成りり。情受用。行者ハいりり。幾りも  
 吃さる。小那二個も風の雲成捲りり。悉く吃盡り。茲小東廊下小  
 一個の小道士潜り居りり。鈴成殿上小丟りり。成りり出り殿  
 上。探りきり手鈴を摸取頭を傾りり。小三聖の像小呼吸の色  
 あり。小道士仰天りり。害怕急小走り出り。一個の茹り接と踏

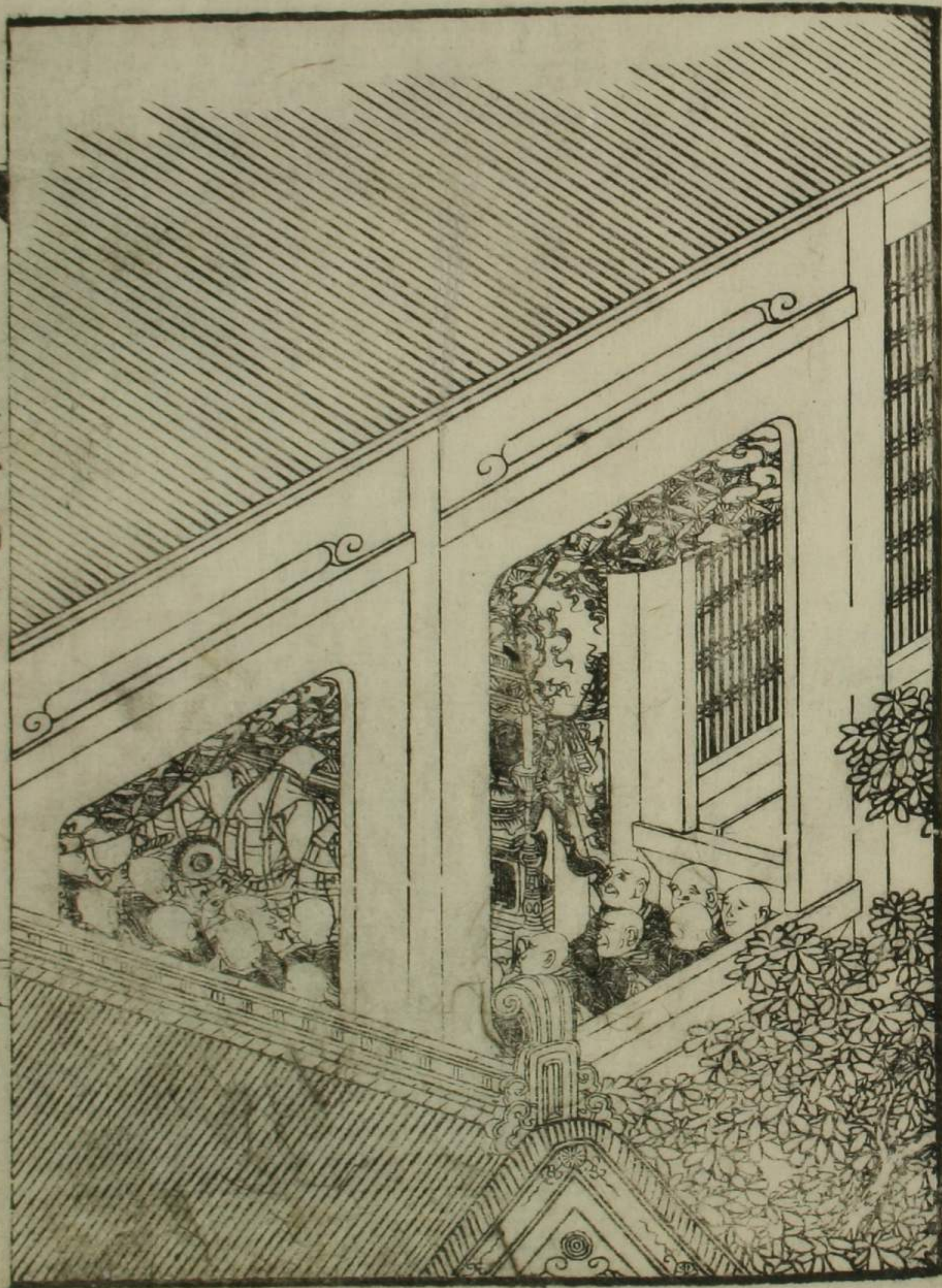
撲的と飛び一声啗的と響く鈴を粉碎とて八戒忍うの  
 呵々呵々として小道士益慌得て一歩一跌撞到く方丈の外  
 へ逃出く叫ぶ曰師公きこりも〜と三個の老道士即ち門戎用  
 へ何ぞ申しと問小道士戦々兢々曰小弟殿上小鈴戎忘る小依  
 尋き〜と心ととも肉忽ち人有く呵々〜と〜ひい更何者か系る  
 戎あ〜と〜此昔達〜と顔色如菜ソひ〜と老道士急小令  
 を傳く〜無道士戎呼起〜掌燈戎拿手〜正殿小進〜入行者以下  
 三個は是戎刃々〜就板着臉〜動身もせと坐〜居〜何小虎力  
 大仙燈を點〜前後戎照〜曰五人一個も有る〜然る小何  
 者〜此供献戎把〜都吃了〜や魔力大仙曰小弟おれ小是我徒  
 慮心小彌経とる故小天々聖駕戎降臨〜と這供養を受用〜と

ひ〜な〜羊力大仙曰既小如此〜と仙駕未〜飯〜  
 我門拜〜と些乃金丹水戎求〜朝廷小進〜是我門う大功の  
 らん。虎力大仙曰此説的是なり。徒牙們急に動樂戎奏せ  
 〜と令〜と面白く囃〜と三個の道士と法衣戎披〜と塵戎揚  
 け〜舞踏拜伏〜と願〜と天尊些乃金丹聖水戎〜と朝廷  
 小進〜と心不乱小祈戎〜と八戒行者〜と耳熟〜と曰我門  
 供物を受用せ〜と美〜と這般ある祈戎受〜と各態の  
 ち〜と何〜と行者暗小唱〜と曰你何〜と戎〜と  
 かな〜と我小憑〜と声を塵〜と曰仙輩且〜と拜祝〜と  
 休よ我門蟠桃會より直小〜と曾〜と金丹聖水戎〜と  
 ぞ。ほ日小再び〜と垂賜〜と那大小の道士木像の脱出〜と

成すく大い小悦ひ活天尊臨降多ふあす放とる勿き好す小長  
 生の法見を求めしととを立鹿力大仙とて拜しと曰是非小と  
 の聖水を留る弟子們小あて延命長生とてちあて祈す  
 休む行者が曰然る力なり我此の聖水を与てし去るる心ゆく  
 汝ホウ苗裔を滅とふりて金一振り道士頭を叩く日子孫の  
 と力なり弟子ホ斯まて恭敬心を念かりて此の聖水を与て廣  
 く道德を宣國王小奏しと普く信門成勢ひやふ。行者が曰此  
 上此の聖水成与て乙苦物然るきん。衆道士大い小悦ひ稽首謝  
 思那三個の老道士或も大缸を抬或も砂盆を取或も花瓶の花を  
 捨投しと三人の前小置行者う曰汝ホしとて去と捨子を掩  
 せしめくも胴も天機をりてと者あてて眼前小天罰を堪

ぐしと怖しむを衆道士敬る命小順ひ一弁小出退る。其同行  
 者立起り。虎皮の裙を撤着て一の花瓶、臊溺を垂込るあて  
 八戒も何れ積鼻禪をすりて砂盆の中へ溺り、汝僧も缸の中  
 へ溺を撒り依り坐。衆行者呼ぶ曰仙輩きとて聖水を領  
 して其因衆道士捨子を推ひ死頭を叩死思成謝し缸瓶砂  
 盆血を都て拾出ると一処に集め、徒弟子命しと鐘子成取きと  
 せ。虎力大仙先一鐘汲く一口呷下只管唇を抹嘴を努る居り  
 む。鹿力仙う曰師兄好吃や不也。虎力う曰甚だ不好些醜陋味あり。手  
 力か一口呷く曰些猪の溺のて臊気あり。行者是ははとて今も  
 手洗しとてを察し。悟浄八戒小曰二個の手洗を弄る箇名を留る  
 勿心ち大小叫く曰汝ホしとて。是も鐵の天尊ありとて大磨の僧





三徒  
弟到  
三清  
觀

官告を奉り西天のありし路に當國のまきりし。おかりの守供兼  
 我の吃の嗜々今汝の吃の其磨の聖水とて。是れ我の溺の  
 尿の呼り。三個の。呵々。道士は大きに怒り。舟の  
 文に掃帚を動し。瓦塊石頭を投付。細挺んとて。行者八戒沙  
 僧と早く殿外に周出雲に跳り。駕を往し。智潤寺に。敢て師又  
 小の告。眠付。祓次の日早朝。三藏起出。徒を呼。  
 我國文を換き。汝も来き。命ド。三人。師又の  
 跡に隨ひ行。三藏。五鳳樓に至。黄門官に對し。礼を。く  
 姓名を報し。傳奏を憑。黄門官則ち身を奏。國王奏と  
 云。曰。這和尚先を要。まきり。門を開。唐僧  
 亦。宣。師徒。控。前。排。列。國文を國王に呈。其折。

黄門官き。奏。曰。三位の國師。来き。國王奏。成。急  
 小竜座を下。里身。躬。上殿。迎。三個の道士。國王を。見。て。も  
 敢。礼。を行。甚。慢。國王道士に對し。曰。國師。朕。あ。げ  
 清。小。来。何。有。や。虎。力。大。仙。曰。大。の。い。ど  
 告。為。来。夫。先。置。那。搭。前。小。一。四。個。の。和。尚。ら  
 那里。来。り。者。ど。國王曰。是。唐。土。大。唐。の。差。西。天。に。往。く。經。を  
 取。き。此。に。到。り。國文を換。り。成。願。を。り。道士大に。笑。  
 曰。我。他。を。奏。せ。し。来。ま。き。不。國。他。們。此。に。在。る。幸。ふ  
 國。王。驚。く。曰。他。徒。何。小。因。尊。顏。を。冒。罪。を。犯。す。や。道士  
 曰。陛下。あ。げ。知。あ。し。他。昨。日。ま。き。り。城。外。に。於。て。兩。個。の。徒。を  
 を。殺。し。五。百。個。の。囚。僧。を。走。し。せ。刺。三。清。觀。小。思。ひ。入。り。三。聖。の

像を毀壞御賜の供物を偷し吃ふ我ホハ只天尊の下降西へうし  
 心は金丹聖水を求る陛下小なるんともいひ小那厨言の中へ小使  
 を遣ふ我ホを嘲弄し陛下宜しく是ホの罪を証し之へ國王  
 大の怒り武士小命し之を誅せし守行者呼ぶ曰陛下且く  
 逆鱗を息し貧僧の啓奏を以て昨日我ホ他が兩個の徒を以て  
 殺せし覺たし亦因僧を放せしを以て知れし其の上三清觀  
 とし心は供物を偷し尿を垂し之を誅せし之を誅せし無  
 とし之を誅し我の東土の産物初く此国小きよりまど街道  
 之を以て況や其三清觀の於ち陛下是ホ成以て由り察し之  
 へ國王是成以て更小決断定し之を以て又黄門官来つて奏す  
 らく許すの卿老きより轉奏を願ひいと啓と國王は之を即回

小命宣く其奏問を以て衆民頭を呼ぶ曰春雨不降夏水のりて  
 乾荒甚しくは願くは國師を請ひ雨を祈り普く下民の  
 塗炭を濟ひ之へ國王奏を以て三藏僧小命し雨を要しむる小命  
 成滅さし之を當年乾荒の時僧小命し雨を要しむる小命  
 一點の雨成も降し之を以て然る小天幸小國師を降し雨を祈ら小  
 忽ち其験を現し民の塗炭を援け你今遠く来つて我國師の  
 顔を冒し即同小殊戮さし之を以て姑く其罪を恕さし汝は國  
 師と行力成競べ雨を要しや麼や雨を祈り之を以て其罪  
 を饒し國文を換り西天小赴し之を以て雨成はるる能はむ  
 んを汝を典刑せん行者答く曰是何より易たむたり早く國師  
 と勝劣をら之を以て國王其何衆官小命し壇場を掃き

せ親ら五鳳樓小登り是れ觀看も斯く虎力大仙上檀へ昇らんとしてを行者引住めり曰先生今日雨を祈ふは望むくハ明白小溝を得よ方知雨下は是れ卿が功績なり虎力嘲笑り曰これ檀上小一度响む風起り一声响む雲起り三声小雷なり四声り大雨降五声り雨晴んる何の疑りありん行者笑り曰妙々呵果しり早々了了々々虎力其何拽開小歩り壇小上りて是れ衆人息れ結く是れ虎力ハ檀上小立定り小道士小箒と捧させり周小立せ解一口乃宝剣を執兎結を念一道の箒をせり一書ハ令牌をくれた忽ち手空のうら悠くと風色飄りきくる行者是れ一木の毫れ抜く変じ我假身りつ唐僧の傍小立せ本身ハ走つと空中小至り高く司風くと呼風婆く慌く布袋り口

我捨任異二即ハ口繩れり行者が前小きり礼れかて行者曰我唐僧ハ保護り西天小りり経をりし守はる今計りて妖道し勝れ賭り雨を祈る汝急麼老孫を助むり却く妖道を助るや汝今風を把収む些の風児ゆもさむ我鉄棒れり汝を二十棒さし司風大の小恐き我敢り風を吹りいれりといひて去り去道士六期りも守り又令牌を執箒焼く撲と下一歩を推雲童子忽然り雲れ佈作事務即君雲霧を起り来る行者急小喝止前り分付々々推雲童子を収めさる道士も既小二度り手をりり大の小焦燥剣小伏髪を散り咒を念り箒を焼り令牌を二下をれり只看鄧天君雷公雲母我領り當空小到り行者又喝止り前のり今も扱問り曰那道士も何の法を



三道士  
 阻唐僧  
 師弟

百廿二回

かくて天君く青どうや。鄧天君答く曰。那道士五雷法をかくん  
 ねく。箒を焼玉帝成驚く。因く我門昔成奉り。雷電を助け  
 雨成下さし。行者が曰。既小如此方。且く任まじ。老練う行り  
 成伺ひ待よ。鄧君唯々。雷電成鳴。肉を守。茲小於く道士  
 を案小相違。愈加着忙。箒を焼。兎を念。令牌をたす。と  
 小。羊空の中四海の龍王。あり集ま。行者をたす。急小上  
 札を施す。行者さる前。了。雨を止免。扱ひ。那妖道  
 か。四声の令牌。已小畢る。是より老練が論到。衆列。俱小我成助よ  
 我棍をさく。馬号。一指小風至。二指小雲を佈。三指小雷電  
 成發。四指小雨を下。五指小天晴。日出。若是。小違。者ハ我  
 鉄棍を吃。守。今付。衆神命。去。行者今ハ

心易し。と頭下。毫を把。上身小収め。高く呼ぶ。曰。先生々々  
 四声の令牌。も小已小呼終。魚更小風雲雷雨。何変。嘲  
 笑。虎力大。小面。成失。壇を下。五鳳樓。小進。昇る  
 國王。曰。國師。已小令牌。四声。及ひ。風雨。何故。道  
 士。曰。今日。竜神。他。行。家。小在。宿。守。故。小雨。降。行者。階  
 下。小在。是。成。大。小叫。曰。陛下。道士。忘言。小。因。雨  
 諸神。小在。宿。是。國師。の。法術。靈。風。雲。雷。雨。須。更。小。到。小。因。雨  
 風。降。ら。貧。僧。が。師。又。一。度。祈。ら。風。雲。雷。雨。須。更。小。到。小。因。雨  
 國王。曰。如此。早。く。檀。小。上。雨。成。降。せ。我。茲。小。在。親  
 く。看。ん。三。藏。行。者。が。袖。成。ひ。久。耳。我。敢。く。雨。を。祈。乃。法。と。知  
 む。汝。小。行。者。曰。心。を。勞。小。只。管。經。成。念。へ

我軍一々手反ありと茲に於て三藏擅小上里經を念じ。行者師又  
 か經を念盡ををせし。一棍を上空を臨み一指を揮む。俄然と風吹  
 り。一破を起し石を走らす。行者よ。棍をとり一指を起し。只者昏  
 霧朦朧と濃雲ふびた起る。又一指を起し。雷响電閃大地も裂山  
 岳も崩るが如し。又一指を起し。忽ち大雨盆を傾がて。辰の刻より  
 降り。午の刻に至る。國王昔傳く雨を敷すと有れば。行者就  
 ら。棍を把り。空ふ向ひ一指を起し。霎時乃同小雷止風息雲散し。雨  
 収まり。依旧日輪杲々。曦光出たり。國王大り。其道德を感し。  
 駕を促し。宮中小回。己小関文を換し。唐僧を放し。去り。人々  
 ろ。小那三個の道士國王戒制し。陛下且く関文を換め。了り。か  
 一言や。有り。と。妨る。

外道弄強欺正法

心猿頭聖滅諸邪

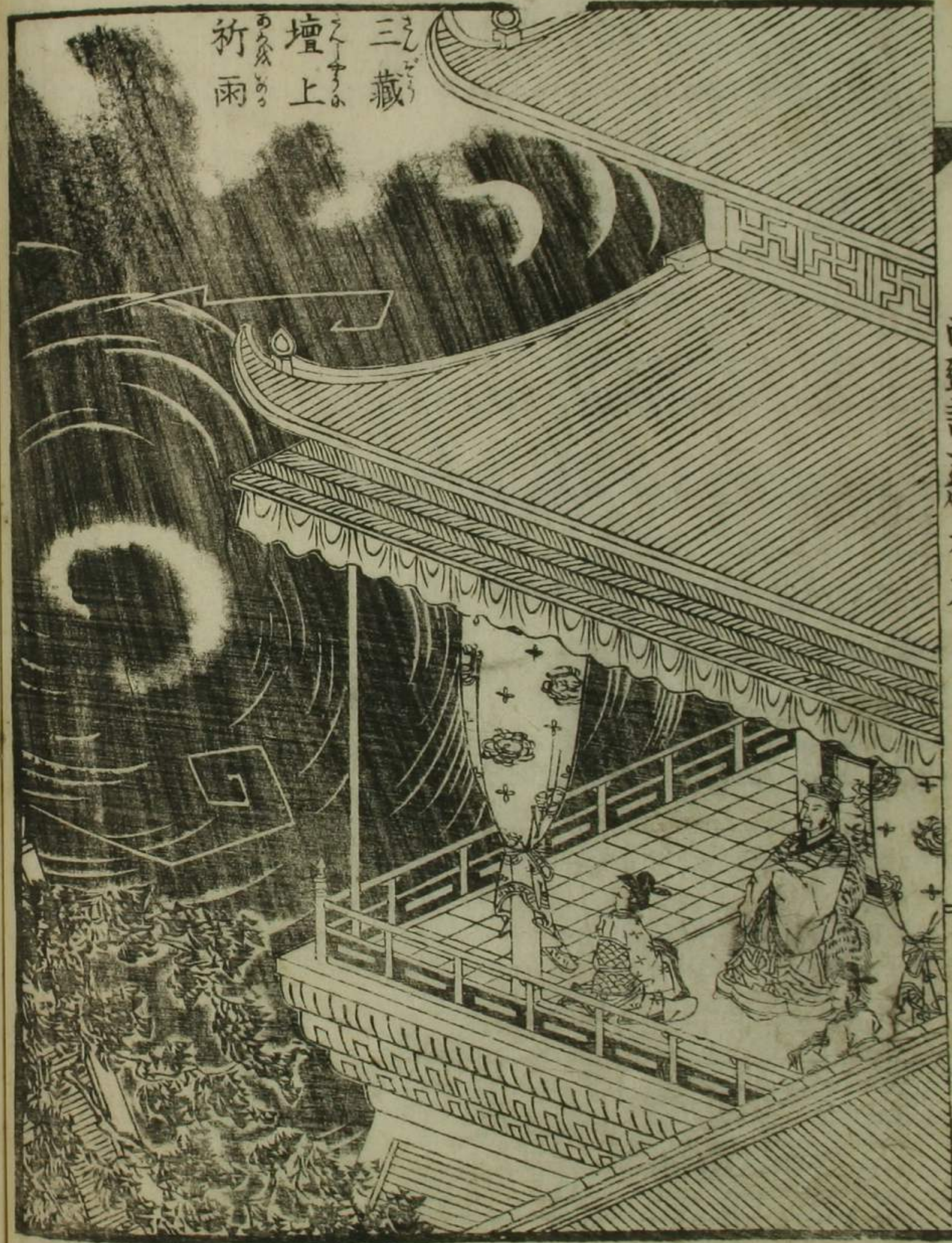
此時國王道士小向ひ其故。又問小。道士が曰。陛下よく。かり。ひ。我  
 們。這國小き。り。政を保る。り。二十余年。なり。然る。小。今。這。和尚。法。力  
 を弄し。我。們。が。声。名。を。敗。る。陛下。只。一場。の。雨。成。り。つ。死刑。を。恕。  
 玉。り。の。いと。狂。忽。の。と。り。み。かり。我。望。ら。と。再。び。賄。を。り。勝。劣  
 成。試。ん。を。致。し。願。は。他。の。命。し。國王。小。那。小。迷。さ。り。関  
 文。を。収。め。り。曰。必。師。の。望。何。り。脇。が。ん。さ。れ。此。度。と。何。を。賄  
 小。せん。と。さ。る。や。荒。力。大。仙。が。曰。我。他。と。坐。禪。を。賄。小。せん。國王。が。曰。必。師。の  
 見。大。小。差。へ。り。那。和。尚。と。元。來。禪。教。の。出。身。なり。汝。怎。麼。他。小。勝  
 る。成。ほ。し。荒。力。が。曰。我。の。坐。禪。と。是。別。趣。なり。異。名。を。呼。ぶ。雲。梯  
 顯。聖。と。做。と。百。張。の。菓子。を。要。し。五十。張。を。二。禪。臺。と。し。一。張。は。







百夜巴三編卷六



三藏  
壇上  
祈雨

百夜巴三編卷六

く隔板猪牧と云。是別更々々々。筐の裡小物を入猪。當々々々。唐僧よく猪。ほも罪を免。國王を与へ。か。猪。ほもんを。斬罪。我師の恨を雪。國王を。首成傳。一個の珠紅漆の櫃を取。内官小命。後宮小入娘。宝貝を放下。殿前。抬出。唐僧道士小命。下。櫃の裡。何物。猪。中。命。行者。焦燎虫。唐僧の頭上。暗。小曰。師。心易。我。遂。櫃。脚。下。一條の縫。鑽。山河社稷。坤地理の裙。行者散。抖。指を咬。血を噴。爍流。去。鐘。又。縫。鑽。三藏の耳。の上。曰。櫃の裡。破。鐘。教。三藏。て

前小進。出貧僧。猪。鹿力喝。曰。我先猪。中人那の。櫃の裡。山河社稷の襖。乾坤地理の裙。三藏曰。我。是。大小違。破。鐘。國王大。腹。を。這野僧。朕を悔。宝。甚。流。去。鐘。如。を。入。三藏曰。陛下。櫃。若。是。宝。貧。道。罪。小。伏。國王。此。櫃。開。小。果。然。唐。僧。猪。如。か。國王。大。小。怒。羅。維。物。を。入。朕。を。辱。待。我。自。個。の。宝。を。猪。又。櫃。を。後。宮。抬。出。國王。御。花。園。小。下。一。個。の。挑。を。摘。櫃。の。内。小。藏。官。人。小。命。殿。前。一。抬。出。行者。私。去。縫。兒。鑽。入。小。桃。子。即。ち。原。身。を。現。櫃。の。内。小。坐。挑。を。吃。了。接

ちりり残遺し、又又焦燥虫となり、恥出く三藏が耳朶の上ふり、  
 三藏の裡なるハ挑の技かき、我告々るふより、三藏まき、猪せしる  
 成りしむ、手カが曰、我先猪せ、三藏の内なるハ、つ乃、仙挑なり、三藏  
 曰、是と挑、小あ、ハ挑の核、成へられ、國王心中、小唐僧が猪し、不  
 を悦び、官人小命し、三藏を問、ひろふ、果然挑の核、成れ、大の小警  
 我親挑を藏し、入置し、小何、核をとり、小成し、小やと、更り不可  
 解、惘然り、処を去らず、此河、虎力大仙、保難を加、衣服を改、出、来  
 里殿、小昇り、曰、這唐僧、搬運、抵物、の術あり、と、おれ、え、我、其、術を  
 破、王、い、ん、と、乞、三、藏、を、後、殿、小、拾、へ、せ、心、中、小、お、り、ひ、ま、り、他、く、物、と  
 抵、得、術、有、し、も、人、身、を、抵、得、る、を、能、り、と、思、惟、一、個、の、小、道、童、と  
 櫃、の、内、へ、く、拾、出、さ、せ、三、藏、を、呼、び、猪、ま、し、守、行、者、又、倒、り、く、く、

恥去、鑽、く、く、小、一、個、の、小、道、童、なり、く、く、身、を、違、し、一、変、し、く  
 虎、力、仙、と、り、り、櫃、の、内、小、進、り、曰、我、遁、法、を、以、く、茲、小、来、る、を、別、々、お  
 ら、ど、お、り、小、那、唐、僧、必、と、是、小、童、なり、と、猪、し、當、し、く、く、你、の、頭  
 を、剃、く、和、尚、と、か、し、我、和、尚、なり、と、云、猪、く、他、小、勝、ハ、童、子、曰、只、師  
 又、乃、意、小、憑、さ、し、兎、も、角、も、く、他、唐、僧、小、勝、と、く、兼、引、ゆ、を、行  
 者、悦、び、鉄、棒、を、要、し、く、剃、刀、と、か、し、童、子、の、髪、を、剃、落、し、く、曰、頭  
 々、己、小、和、尚、と、お、れ、も、ま、ご、衣、裳、ハ、道、服、なり、快、く、脱、き、出、せ、我、是  
 を、妻、せ、し、那、童、子、唯、く、く、穿、処、の、葱、白、色、の、鶴、靴、毛、を、脱、き、出、し  
 々、ま、き、し、行、者、一、口、の、仙、氣、を、吹、け、妻、し、く、黄、色、の、直、棍、と、か、し、他、小  
 穿、せ、又、一、棍、の、毛、を、抜、く、妻、し、く、木、臭、と、か、し、他、小、授、り、曰、你、此、棍、の  
 内、小、居、り、道、童、と、呼、び、ハ、十、言、と、く、く、も、出、る、を、勿、き、右、一、こ、え

和尚と呼ぶ。自ら蓋然閑々木臭をくたの裡小阿弥陀佛と念ふ。出きとれと命。又集躑虫と變りて鑽り出さく。三藏の耳朶ふと有り。櫃の内なる和尚なりと教む。何小虎カ三藏小向ひ。汝櫃の中なる物哉。猪よとりて三藏曰。は何より易し。櫃の内なる。一介の和尚なり。只一声呼とて。小那童兒頂をりつ。櫃の蓋を用た。奠鼓を敲た。佛名を念ひ。出きとる。二人の道士。案ふ相違し。惆惑ひ。只箱より。又処をまき。國王曰。這和尚の法力神鬼の浦有。小似たり。今も他小閑文を換て。子へ。虎カ大仙。奏す。陛下。其と。我待。我待。我們別。小一奇藝あり。他と。再び此賄をふ。國王曰。甚麼の奇藝。虎カ曰。我們兄弟。三人。小一術あり。頭を破。再。還接。腹を割。心を割。再

ひ。瘋全。瘡油を鍋。小滾。洗濯。國王大。小驚。死。此。都。死を尋。路。危。難。虎カ。我。法力。有。些。身。過。陛下。心。易。快。用。意。を。國王。是。三。藏。們。を。呼。曰。國。師。汝。杖。を。放。今。度。賄。を。せ。成。望。む。則。ち。破。頭。割。腹。下。滾。油。洗。澡。成。賄。せ。守。你。せ。や。否。や。行。者。本。相。現。曰。貧。道。此。三。隻。を。恐。望。小。任。せ。賄。を。成。と。應。是。小。より。國王。昔。傳。行。者。を。捉。教。場。小。到。頭。を。破。劊。子。手。命。を。得。行。者。を。細。劍。を。抜。声。を。け。丁。と。首。斬。三。四。歩。も。踢。去。行。者。が。頭。の。腔。子。中。より。更。小。血。出。吐。の。裡。小。叫。色。あり。須。更。頭。の。腔。子。中。小。接。合。些

の痕をも残さず曰のどろ。監斬大いふやうな急な朝ふ今斯と  
 奏聞と。行者も拳を拾ひ網繩を拵断走殿前小至。我前  
 まで小破く又接る。然る早く國師の頭をも破く。試よく叫ぶ虎  
 カ心得たりと。場所小至れど割手まじ。虎カ首破落す。是  
 も腔子裡より血出む。おや頭還りきさうんと。行者早く身  
 を変り一羽の大鳥となり。虎カが頭を啣く御水河の深淵に  
 落し沈む。虎カが腔胸の裡より三声連く叫も頭よりまゝす  
 遂小腔子中より鮮血なれ出く身躰倒れ死す。衆人驚て是  
 を見れば二隻の黄毛の虎なり。監斬まきり朝小入斯と奏しこれ  
 を國王色を失ひ驚た。強う大いなるぞ。鹿カ曰師兄死せりと  
 りとも黄虎とをうづらやう。是必と那和尚掩様法を以て

斯のしと刀とるな。我他と破腹の胎をり。國王の會子  
 を呼行者を拿へ去しむ。行者曰。今手むる。勿き我自。性自  
 腹を裂く。臟腑を洗刷せしと揺。探歩く。運小教場小至。身  
 成大椿の樹小靠。衣帯が解開。肚腹を露出。那割子短力  
 を把り行者り心下小突。立膝下。割を。行者双手を以り  
 肚を肥。ひいた腸臟を拿出。一條々々理匂る。多回。又依旧  
 腹小収め。一羽の仙氣を吹か。依然と。一點の痕を。監斬該  
 だ。惆々。此より。我回。國王益々。死強。所へ行者ま。未  
 鹿カ大仙肚を割く。刃せよと。請。鹿カ曰。我。汝。不。輸。と。揺。々  
 擺。々と歩。足。々。教場小至。會子小命。一腹を割開。せ。腸。把  
 出。と。行者早く。妻。一羽の。餓。雀。鳥。となり。翼を。翅。き。飛。ぶ。

西遊記二編卷六

十一



元カ亡 術虎 賄道

虎力

西遊記二巻

十

鹿力五職をしていづくに捕る其所ともあらず捨置たり。是れ依て鹿力大仙腹破き屍倒し先んて我れを殺む是れ一頭の白鹿なり。監斬慌得て又斯く報む國王大に怖を怪し心決せんと手力大仙奏し曰師兄二個とも死し獸の形を露出是皆那和尚法術を弄く人目を惑ふ守と覺たり。我沸油の賄を奪し師兄の仇を報せんと望まれば國王又令我下し一個の大鍋小満々香油を貯り裂火を燃し油を滾焼らし。行者を呼ぶ汝快く鍋の中へ洗滌せよと望む。行者二儀ゆめ及ぶ布の直綴を脱虎皮の裾を解跳し鍋の内へ翻波園流まらるはかき水を沐し。八戒尼々沙僧袖を引這老猴這般の奇技あるんと思ふ。かまると脚々兩個只管小誇獎行者是を見ん心疑ひ那獸子

我を嘲り笑し心は一驚を吃し故乱させしと巧み遂に油鍋の底小沈み變じ束の扱となり再度浮き出む。監斬官是れ大に小悦ひ那和尚滾油の中小烹死しと奏す。國王大に小悦ひ急死骸骨を撈上り取きしれと令しこれ心ほいし一把の鉄箸をゆり油鍋の裡を撈とりども荒當の目荒れを行者孔り漏落とまほひほと依り又奏し曰那和尚骨まじ幼嫩溶化しと。國王曰是れ再び今乃和尚を烹殺せよと命を兩辺の官人八戒の面をぬかすをん。先八戒を擡り細くし八戒大に小慌り曰此弼馬温の濛猴しか賄を奪し油鍋の底焦りなり。尚我れを殺さんとは何事ぞ。乱跳り悲し泣く行者鍋の底ゆく。獸子上り亂罵を呼り本相を現し跳り出諸

人六つ小驚た急小朝小和尚死せず。油鍋より跳り出ひて奏す  
 間中なり。行者衣服を穿て走り来り。羊力小向入浴。油鍋小  
 洗浴せよと望まぬ。羊力殿を下り衣服を脱ぎ油鍋の内へ跳入洗  
 澡せり。行者小劣らず。行者油鍋の辺り小行手成伸りさ  
 ぐり小那滾油都く氷冷とわれ。心中小おれ。是必と冷竜此  
 小在り護持せり。急小毫毛を抜り假身とをり。本身去  
 空中小跳上り。咒語を念ひ北海の竜王を喚寄。問曰。何處妖  
 道を助け。鍋の底小冷竜を住り。滾油を冷油とをまき。竜王  
 曰。小竜敢て他を助む。大聖知む。此色。這薛子畜若心修行し  
 那冷竜を自ら煉的作此技をなすと処なり。小竜今他を冷竜成把り  
 収まらん。然るに他術多し。骨砕皮焦る。行者曰。趁早收了。よ。竜王

沸し一陣の狂風と化し油鍋のちり小到り冷竜を捉り北海小  
 回りたれ。羊力滾油の内小有り。爬出るる能は。七顛八倒し須  
 臾の向小骨脱肉爛り死し。あやど。監斬官急死。朝小走り行り。羊  
 力國師油鍋の内小死し。奏し。國王は。声放つ  
 り。大し小哭不知其後。事跡を大同を。分解を。油漬

繪本西遊記二篇卷之六畢

油漬



